

## 統合新領域学府ユーザー感性学専攻の概要

### 1. 背景

21世紀は「技術」に加え、「人間」そのものの理解を深め、人間に密着した価値の形成と満足が求められる時代である。九州大学は、人間理解を深め、技術を磨いていく基盤として「感性」をとりあげ、科学技術はもとより、人文科学・社会科学に亘る広範な知の再編成に全学的に取り組んでいる。

九州大学は平成16年度文部科学省科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラムにより、ユーザーを基盤とした技術と感性の融合をめざすユーザーサイエンス機構を設立した。ユーザーサイエンス機構は、知の活用主体であるユーザーの視点に立ち、技術と感性を融合してユーザーのよりよい生を実現することを理念として研究を行ってきた。感性を基盤とした人間理解の上に知の再生と価値創造をめざすユーザーサイエンス機構のとりくみを教育活動にも発展させ、大学と社会、学問と実践の間に生き生きした関係を創り出していくことが求められている。

九州大学は平成23年に、九州帝国大学創設から百周年を迎える。九州大学は、百年の伝統を基盤とし、「知の新世紀を拓く」を目標に事業を展開している。旧九州大学と九州芸術工学大学の統合による特長を活かし教育研究拠点を構築する、統合新領域学府ユーザー感性学専攻の設置は、知のフロンティアとして進化する新生九州大学の代表的構想である。

#### (1) 「もの」から「こと」、「ころ」への価値転換

20世紀は工業化の時代であった。知は科学技術の発展と産業経済の成長をもたらすことが期待され、現実に社会や生活に様々な利便性や効率性をもたらしてきた。技術発展の背景には「もの」を中心とした豊かさの実現を社会の第1優先課題とする時代の価値観があった。

しかし、ポスト工業化社会の今日では「もの」に対する欲求は相対化し、かわって「こと」の魅力や「ころ」に関わる満足に社会の関心は転換しつつある。人びとは美意識など感性を重視した消費行動やライフスタイルを選択するようになった。従来の高性能・高品質・低価格を実現する技術から、技術やデザインのしっかりした裏打ちを持ちつつ、ユーザーや生活者の感性に働きかけ、感動や共感を呼び起こしていくことが強く求められるようになった。価値や創造力を原動力とする社会への転換が始まっている。

#### (2) 知識を知恵に変換する感性的な人間力への期待

日本の少子高齢化、格差拡大等を背景として、家庭、地域社会、教育現場、企業、行政等の広汎な場面で、いじめ、自殺・犯罪の多発、引きこもり、「うつ」等の「ころ」やコミュニケーションに関する問題が急激に増えている。これらは、人が従来の画一的な規範や標準的な知識に縛られ、多様性を活かし、創造性を展開していく知恵を欠いていることに大きな原因がある。

情報や知識、狭い専門性ではなく、知識を統合し生きる知恵や喜びに変換していく

感性の力が必要になっている。コミュニケーション力・共感力、構想力・俯瞰力、協働力等を持つ感性豊かな人材育成は、世代や年代、業種や組織の違いを超えた社会喫緊の課題である。

### (3) 産業の新たな価値軸「感性価値」の浮上

経済のグローバル化とともに産業の地図は激変し、日本は現在、中国、インドをはじめとする経済新興国の厳しい追い上げと競争に直面している。高性能・高品質・低価格を強みとして日本製品が競争優位を持っていた市場がそうした国々に奪われつつある。また、製品のライフサイクルが短縮化し、新興国の技術開発能力が向上するなかで、わが国が技術優位を保てる期間がますます短縮される等、日本製品の競争力は不安定性を増している。

産業界全体の課題として、これまでの大量生産・大量消費の志向、技術開発一辺倒のビジネスモデルの修正が求められている。すなわち、ものの機能・信頼性・価格という、供給サイドの客観的要素を超え、人の心地、感覚、感動といった感性の要素を基にした感性価値の創造が、ビジネスと産業に求められている。

### (4) 「日本の感性」の持つ普遍的価値の追求

日本の感性は、わが国にとって知の地下水脈、発想の源泉として大いなる可能性を持っている。禅や石庭等の伝統文化、寿司や発酵食品等の食文化、漫画やアニメ等のポップカルチャー等の日本文化の持つ魅力や可能性について、海外からの関心と注目が集まっている。日本の感性を、普遍性を持った価値やソフトパワーとして活用することは、これからの日本がグローバル社会において存在感と影響力を維持し行使していく上で、欠かせなくなっている。

日本人がカンやコツを含め、様々な領域での仕事やものづくりにこめてきた独自の感性は、これまで人から人へ暗黙知的に伝えられてきた。しかし、急速な人口減社会を迎え、団塊の世代の大量退職がはじまった現在、日本独自の感性の世代間継承が困難になっている。地域の伝統産業をはじめ様々な分野において、「日本の感性」を客観的に分析し実体化して、普遍性を持つ知として記録、継続、発展させていく取り組みが喫緊の課題となっている。

### (5) 「アジアの感性」が息づく九州

日本の感性は「アジアの感性」と共通し連続する水脈を持っているが、アジアの感性が代において最も濃厚に息づいている地域は九州である。禅の精神文化、お茶・菓子・麺等の文化、陶芸、織物等の工芸は、まず九州にもたらされ、日本各地に広がっていった。中国・韓国・台湾等との交流は、東京圏では情報にとどまるのに対し、九州では日常の生活次元で行われ、「皮膚感覚としてのアジア」が息づいている。

21世紀はグローバル化の一方で、近接する国、地域の多様性のマネジメントも強く求められる。アジアの異文化を広く受け入れ新しい価値を創造していく土壌を有する九州地域に立地する九州大学は、感性交流の舞台の独自性を活かす地の利を有している。

## 2. 内容

ユーザー感性学専攻は、修士課程定員30人を募集する。また、学年進行に伴い平成23年度にユーザー感性学専攻に博士後期課程を設置する予定である。

21世紀の社会をリードしていく人材は、人間そのものの理解を深め、人間に密着した価値形成と、個人と社会の満足創造を推進していくことのできる人材である。具体的には、感性を科学する、感性を育てコミュニケーションをはかる、感性による経済価値をマネジメントするための3つのコースを設け、人材を育成する。本専攻には「感性科学」「感性コミュニケーション」「感性価値クリエーション」の3つの教育課程（コース）を設ける。コースごとの入学想定人材は以下のとおりである。

### (1) 感性科学コース

感性に関する客観的測定・分析・評価を行い、感性の研究に従事したいという人材。あるいは感性を技術や製品開発に生かすことに興味を持つ人材。

### (2) 感性コミュニケーションコース

多様なユーザーを支援し、感性を育む快適で安心できる居場所とコミュニティ、製品・サービスや知財を創造する事に関心のある、好奇心旺盛で問題意識と社会的使命感の高い人材。

### (3) 感性価値クリエーションコース

これまでの技術起点で製品に基づく商品・サービス開発のありようを、人の感性を基にした心の充足・感動・共感という価値創造へと転換し、産業や地域社会、生活を革新していこうという問題意識と使命感の高い人材。

これらの入学者の能力、動機を活かす研究指導を行う。科目群（カリキュラム）は、コース相互の有機的な関連を持ち、学生は教官の指導を受けつつ、各自の問題意識と学習計画に応じて組み合わせることを可能とする。従来の学問の横断・統合と感性科学、感性コミュニケーション、感性価値クリエーションの実践的な能力形成を図ることをカリキュラム編成の基本的考え方とする。

専攻共通科目としてプロジェクトチーム演習（PTL）及びインターンシップを設定する。プロジェクトチーム演習（PTL）は、実社会の問題の解決にチームで取り組み、知識を知恵に変換し、生の喜びと社会の満足を協力して創造していくことのできる人材の育成を図るものである。インターンシップは企業等で現場の体験を積み実践知を得るものである。

## 3. 効果

九州大学は、感性の教育研究により、深い人間理解とユーザーの視点に立った価値創造を先導できる人材を育成する。すなわち、養成する人材像は、感性の教育研究を通じ知識を知恵に変換し生の喜びと社会の満足を創造していくことのできるプロデューサー型人材である。

広範な分野の大学卒業生、大学院の修了者および在籍者、企業、行政、NPOの実

務に携わっている社会人等、多様な専門と背景を持った人材を受け入れ、それぞれの専門と感性を統合して活躍できる人材を社会各層に送り出していく。

本専攻を修了した人材は、以下のような分野で活躍することが期待される。

- (1) 感性に配慮した経営を行う民間企業の企画部門、営業部門の社員
- (2) 感性をもとに新たな商品開発を行おうとする民間企業の企画部門、研究部門の社員
- (3) 教育、医療、福祉現場等で、感性に配慮した対人サービスを行うチャイルドライフ・スペシャリスト、教師、医師、看護師、ケアマネージャー等
- (4) 広範な行政分野において、感性に配慮したサービスを行う行政機関及び NPO の職員
- (5) 感性やこころに関係する新しい研究分野の開拓をめざす各種研究機関の研究者
- (6) 感性学を把握、理解し、国際的視野にたって提言を行う評論家、コンサルタント、ライター



**User Science Institute**  
KYUSHU UNIVERSITY

**USI**  
九州大学ユーザーサイエンス機構

平成16年度文部科学省科学技術振興調整費  
戦略的研究拠点育成プログラム  
“ユーザーを基盤とした技術・感性融合機構”

九州大学ユーザーサイエンス機構



九州大学ユーザーサイエンス機構 機構長  
九州大学総長 有川 節夫

九州大学は2011年に、九州帝国大学創設(1911年)から100周年を迎え、この百年の伝統を基盤とした「知の新世紀を拓く」を目標にさまざまな事業を展開しています。そのなかで、九州芸術工科大学との統合効果を活かした「ユーザー感性学」の創設は、知のフロンティアとして進化する新生九州大学を代表する構想のひとつと言えます。

九州大学はその推進母体として、“平成16年度文部科学省科学技術振興調整費「戦略的研究拠点育成プログラム」”の採択によって、2004年より梶山千里前総長自らが機構長として全学的に指揮を遺憾なく発揮され、ユーザーを基盤とした技術と感性の融合をめざす「ユーザーサイエンス機構」(USI)を設立し、先進的な教育・研究改革に挑み、知の再生と価値創造に向けた取り組みを行い、大学と社会、学問と実践の生き生きとした関係づくりに専念されました。この間、USIは味覚センサや感性材料等の開発、そして外部(社会/ユーザー)ニーズと学内研究シーズとのマッチングツール・研究テーマの発想支援ツールである感性テーブルの開発、また子どもプロジェクトが3回のグッドデザイン賞受賞に輝くなど、多彩な成果をあげて来られました。

殊にUSIの成果継承として、九州大学は多様な知を再編成し統合するため、2009年4月新大学院「統合新領域学府」の設置予定の運びとなりました。まさにUSIの展望と方向性を活かし、文理融合を基本に統合的な先進の知や感性価値創造を追求し、現代の科学や社会の直面する重要課題の解決に取り組むとともに、そのために必要とされる人材育成を行っていきます。現在、統合新領域学府は「オートモティブサイエンス専攻」と、先述のユーザー感性学の知を集約し、感性的なプロデューサー型人材を育成していく「ユーザー感性学専攻」の設置に邁進しているところです。

私はUSIの使命を受け継ぎ、これまでの研究活動と成果の更なる発展を推進し、九州大学の組織改革と社会への貢献に努めていく所存です。

USIに与えられた約5年間の育成期間もあとわずかとなりました。USIの成果をどう継承発展させていくか、具体的な展望と方向性を明確に進めて行くことが大きく問われることとなります。それには、世界的な教育拠点を目指すとともに、先進的な研究システムの改革に取り組み、多方面での社会との連携を確立してまいります。

何卒これまでと変わらず、九州大学USIにご支援賜りますようお願い申し上げます。





## USIの使命

USIは、ユーザーの視点から技術と感性の融合を図り、「ユーザーサイエンス」を切り拓いていくための 研究・教育拠点を確立し、実践的な研究開発システムと自立的基盤の創造を目指します。

### ◎ユーザーを向いた、「大学」と「研究」のシステム改革

USIの研究活動を通じて大学組織と研究開発システムの改革モデルを打ち立てます。

### ◎ユーザーの視点に立った新しい学問「ユーザーサイエンス」の創造

ユーザーの価値や経験の創出に向け、技術や製品・社会システムに感性的な魅力や使いやすさを与えるために、「ユーザーサイエンス」の体系構築を進めます。

### ◎技術と感性の融合をリードしてゆくプロデューサー型人材の育成

ユーザーの視点とグローバルな視点から、技術と感性、人との、人と環境、人と人の創造的な関係性をデザインし、助長（ファシリテート）していく人材の育成を推進します。



## 「ユーザー」、「ユーザーサイエンス」とは？

USIではユーザー、ユーザーサイエンスを以下のように捉えています。

### ●ユーザーとは？

#### 「知を使い知の恵みを受ける主体」

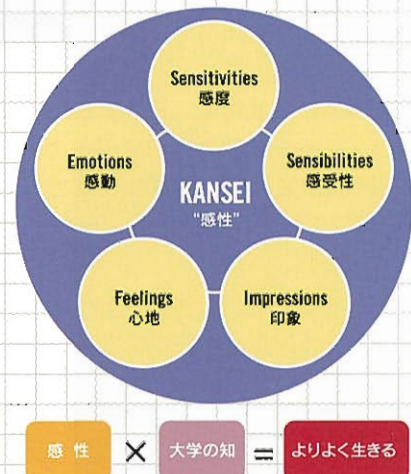
現在または可能な将来において、自然・社会・人文科学や技術の知を、より真正でかつ 大きな幸福を生むために求め、使い、役立てる個人、グループ、組織など（例：消費者 及び生産者、子ども、患者、居住者、学生、NGO/NPO、自治体、国家、人類）

### ●ユーザーサイエンスとは？

#### 「ユーザーからのニーズに科学を織り込み、社会に対し最適の提案をする学問」

ユーザーの感性を捉え、生活様式や空間、商品・サービスを感性価値としてデザインし、創造して行くために必要とされる総合的かつ実践的な知の体系で学際融合によってはじめて可能となる新しい学問領域。

### ■USIが捉える“感性”



## USIにおける感性とは？

USIは感性を「よりよく(適応的に)生きるための機能」と捉えています。その機能の成功の是非が、情動や感情として体験されるものと考えます。さらにこのような個人の適応的行動が、集団として秩序を保つ為に、文化や社会のしくみの理解を基礎として形成されると考えます。したがって、人間の感性を支援する為には、まず生きるための安全性が保証され、次に人類史を踏まえた環境への適応性の確保、及び利便性が備わって、さらにこの上に心地良さや感度が必要となります。この概念に基づき、人間が真に健康で快適な生活を送る為に、生活環境を構成するすべてのものや空間について、以下の3つの条件についてその重要度に応じて評価します。

1.生存保証のための**安全・安心**

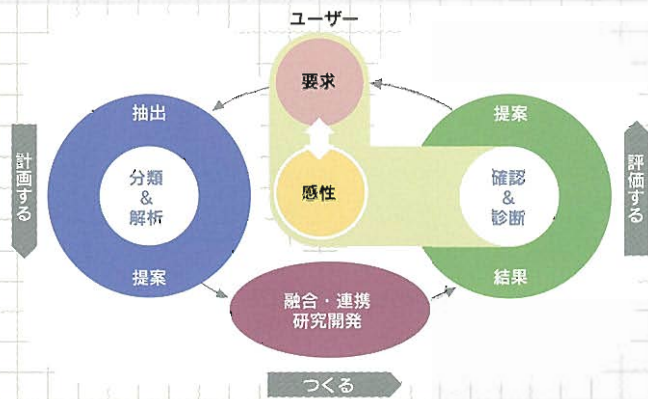
2.環境に対する生物学的・文化的適応のための**適応性・利便性**

3.よりよく、意欲的に生きるための**心地・感動**

■USIにおける研究の進め方と展開：“場”の創出



■USIにおける研究アーキテクチャー



感性テーブルの開発について

感性ニーズと研究者とを有機的に結びつけるとともに、大学の知の連携融合を進め、大学機構改革を進めることを目的として、USIでは知と感性との融合の場および構造を形成・把握するための主要なツールである感性テーブルの研究開発を行っています。感性テーブルは、一定の課題について、感性の3つの条件を縦軸に、提供可能な知を横軸にした表の形をしています。実際に具体的成果を出すことを重視し、知の区分は、3つの研究のアプローチ [計画する・つくる(実行する)・評価する]に設定しています。各セルは感性と知のデータ(様々な分野、研究課題、研究者、手法、事例、評価等)をつき合わせて、多層に記します。設定した研究課題が感性ニーズとの確に対応しているか、感性ニーズの満足のために不足している知の分野はないか、参加を求める研究者は誰か、研究の3つのアプローチを考慮しているかなど、知と感性ニーズのすり合わせは、感性テーブルで対応の構造を俯瞰、チェックして改善することにより、的確に行うことができます。また、感性テーブルの利用を通じて、ユーザーの感性についての研究者の意識が向上する、異なる分野の研究者間の連携が進むなどにより、大学研究者の意識変化や機構改革が促進されると期待されています。

運用

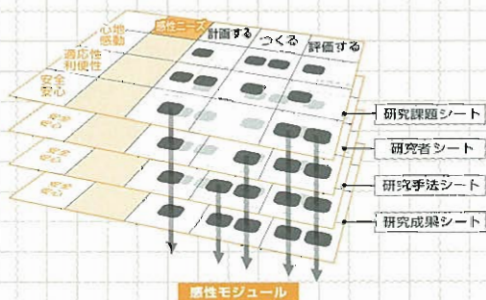
1.感性テーブルによる研究活動のチェック

感性テーブルを作成することにより、計画、実行、評価の各段階で研究活動が適切にニーズを踏まえているか、ニーズに対応するための知の連携はなされているか等のチェックを行います。

2.感性テーブルのデータの運用(計画)

蓄積された感性テーブルのデータを用いて、対象(もの・こと・場等)についての要求に対し「よりよく生きること」の実現を図るプロジェクトの構築・推進に資します。感性テーブルの様式と運用方法については、具体的な運用経験をフィードバックして改善していきます。

■感性テーブルの構造



各部門の活動紹介

九州大学USIは、ユーザーの視点に立って、行政や地域社会、産業界とも連携しながら解決すべき重要課題を探り、多面的な課題解決プロジェクトに、全学の研究者がその専門性を活かしながら参画し、研究領域の融合を図るといふ、従来にならぬ研究開発システムの確立を目的としています。さらに「感性科学」「ユーザーサイエンス学」を素養としながら、さまざまなプロジェクトをマネジメントできるプロデューサー型人材を育成するための教育システムの確立を目指しています。USI育成終了後の平成21年4月に、国際的な研究・教育拠点として新大学院「統合新領域学府 ユーザー感性学専攻」の開設を目指し、各部門は次のような活動を行っています。

感性科学部

ミッションステートメントの達成及び新専攻大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻感性科学コース(仮称)」の設置に向けて、「住まうプロジェクト」を実施し、成果をとりまとめる。

●住まうプロジェクト

九州大学と九州芸術工科大学との統合を機に、新たな学問論を起し、それを組織形態として実体化し、新しい教育・研究開発領域の開拓に取り組むため、芸術工学研究院を軸として学内融合プロジェクトを推進する。住まうプロジェクトでは、「住まう」をテーマに、安全・安心、適応性・利便性、心地・感動をキーワードとして、感性を多面的に科学するための研究およびその手法を充実させる。これらから得られた感性テーブル、知見および研究成果等を、USI終了後の組織「ユーザー感性学専攻」の「感性科学コース」のカリキュラム等へ繋げる。



感性  
コミュニケーション部

ミッションステートメント達成及び新専攻大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻 感性コミュニケーションコース(仮称)」の設置に向けて、「子どもプロジェクト」と「医療環境プロジェクト」を実施し、成果をとりまとめる。

●子どもプロジェクト

大学が、リアルな子どもたちに主体的に関わり貢献することは、これまで限定されてきた。これを省みて、「子ども」研究は、子どもを究極のユーザー、真のオーティエンスとして捉え、「子ども環境」にフォーカスしたさまざまな活動を展開する社会・地域と大学のインターフェイスとしての取り組みを行っている。

●医療環境プロジェクト

医療は患者さんと医療従事者の共同作業であるという視点を大切にしながら、医療管理学、組織心理学、人間工学のコラボレーションによって、ユーザーサイエンス・アプローチに基づく医療現場の問題解決の基盤となる実証研究に取り組んでいる。その中心となるのが「患者・医師協力型カルテ作成システム」と「サークル・ドロ잉」の開発である。

感性価値  
クリエーション部

ミッションステートメント達成及び新専攻大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻 感性価値クリエーションコース」の設置に向けて、「感性テーブル研究」、「クオリティカルテ研究」を実施する。

●感性テーブル研究

本研究は、感性テーブルの開発・運用に向けて、感性テーブルの働きを次のような切り口で捉え、各運用イメージの策定、必要データの確保を行うとともに、これらを統合するシステムの構築を目的としている。感性テーブルの働きとは、感性ニーズの収集・蓄積、感性ニーズを起点とした研究シーズとのマッチング支援、研究計画立案におけるセルフチェック・発想支援、研究者の融合・連携支援などである。

●クオリティカルテ研究

本研究は、感性テーブルのサブシステムである評価・診断システムとそのマネジメントシステム方法を策定することを目的としている。多様な評価主体(作り手、送り手、受け手)に対し、言語指標による複合評価を行うことで、評価主体間のズレを可視化し、得られたズレの要因を読み取ることで、より良いものづくりの方向へと導くための手法を構築する。また、感性を計測する脳科学・生理学的な指標や心理学的な調査手法を組み合わせることで、網羅的な感性評価とそれらの総合的な解析を実施する。

ユーザー  
サイエンス部

ミッションステートメント達成及び新専攻大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻」及び「ユーザーサイエンスセンター」設置に関わる支援とともに、学外連携基盤の創出による教育プログラムの開発、すなわち感性テーブルを活用する「プロジェクト演習型」のカリキュラム設計の支援を行う。また「食と感性研究プロジェクト」・「感性材料プロジェクト」・「ミュージアム研究会」の各研究グループは、研究活動を実施し教育プログラムの設計に貢献していく。

●食と感性プロジェクト

本研究は、味覚センサを用いた「味覚」の研究を中心に、食品を食べるときの「触感(テクスチャー)」の研究や、食品を見てどのようにおいしそうと感じているかを調べる「視覚」の研究と連携し、おいしさの情報をユーザーに提供することを目指している。同時に、味覚センサの小型化を図り、ポータブル味覚センサを実現することで、一般の人々にも手軽に味データに触れることの出来るツールの開発を行っている。

●感性材料プロジェクト

感性に基づいたものづくりの一環として、ユーザーの感性にマッチした材料とその評価法の開発を行っている。ユーザーの感性を起点とし、新しい素材、新しい表面処理、新しい光源を例に、それらを用いて出来上がった製品を評価し、ユーザーの求めるものを具現化できているかを検討し、その評価結果を再度、素材・表面処理・光源づくりにフィードバックし、ユーザーの要求にマッチするまでループアップして行く。また各研究開発グループの有機的結合と融合研究の体制を構築することも目指す。

●ミュージアム研究会

ミュージアム研究会は、博物館実習を想定した標本整理や大学博物館の展示開発に関する新しい手法のパイロットプロジェクトの実施(教育プログラムの開発・実施、巡回展示学の理論と実践の構築・巡回展示へのコミュニケーター導入)、サイエンスコミュニケーションにおける双方向のコミュニケーションに関する研究(展示理解・サイエンスライティング・サイエンスカフェを含む)を行い、新専攻の教育プログラムを開発する。

新専攻準備委員会  
及び新専攻準備室

平成21年度の新専攻大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻」の設置に向けて以下の活動を行う。  
1. 研究内容、教育カリキュラムを整備し研究教育体制を整える。  
2. 学内融合や学外連携を促進し、新しい研究開発領域を切り開くツールとなる「感性テーブル」のとりまとめと、データベース化、またその活用システムの構築を行う。  
3. 各コース、ユーザーサイエンスセンターの体制等の準備を行う。

感性学推進部会

九州大学及び研究機関等における感性に関する教育研究を整理・把握して、新大学院「統合新領域ユーザー感性学専攻」の教育研究活動に質するため、ユーザーサイエンス機構新専攻検討委員会に設置し活動を行う。

感性テーブル推進部会

ミッションステートメント達成に向けて、感性テーブルの研究開発及び運用方法に関する検討支援を行う。併せて教育プログラムとしての活用を検討し、全学への導入展開に関する活動を推進する。

研究企画支援部

機構の研究活動の企画及び支援を行う。

広報委員会

機構内における多様な活動を支援しつつ、ユーザーに向けて「開かれた九州大学USI」をより広く、より分かりやすく理解を得るため、機構としての活動のアピールや情報の正確な発信伝達、機構内外のコミュニケーション促進、機構内部への情報発信を行う。



# 「ユーザー感性学専攻」へ

2009年4月設置予定

## 養成する人材像及び教育

21世紀の社会をリードしていく人材は、人間そのものの理解を深め、人間に密着した価値形成と、個人と社会の満足の創造を推進していくことの出来る人材と考えます。九州大学では、感性の教育研究により、深い人間理解とユーザーの視点に立った価値創造を先導できる人材を育成していきます。すなわち養成する人材像は、感性の教育研究を通じ、知をユーザーの感性と融合させ、生の喜びと社会の満足を創造していくことの出来る人材です。このため本専攻では、知を統合してユーザーの感性と融合することによりユーザーの福祉、満足を実現して、新たな科学、社会、経済を築いていく人材を養成します。またこれらの実現に欠かせない企画力、コミュニケーション力、協働力、指導力等も涵養します。さらに広範な分野の大学卒業生、大学院の修了者及び在籍者、企業、行政、NPOの実務に携わっている社会人等、多様な専門と背景を持った人材を受け入れ、感性の機能の解明、感性に基づく親密で信頼ある人間関係の構築、感性による経済価値創造の分野毎にコースを設けて教育を行います。

## 各コースについて

本専攻には「感性科学」「感性コミュニケーション」「感性価値クリエーション」の3つの教育課程(コース)を設けます。

### 感性科学コース

Kansei Research Course

感性に関する客観的測定・分析・評価を行う等の研究に従事したいという人材。またそれを応用する技術者。

### 感性コミュニケーションコース

Kansei Communication Course

多様なユーザーを支援し、感性を育む快適で安心できる居場所とコミュニティ、製品・サービスや知財を創造する事に関心のある、好奇心旺盛で問題意識と社会的使命感の高い人材。

### 感性価値クリエーションコース

Kansei Value Creation Course

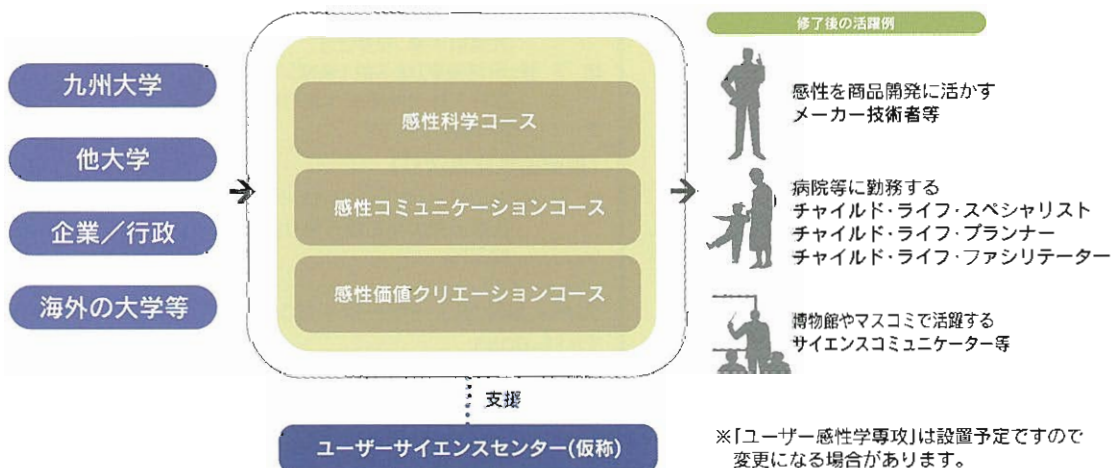
これまでの技術起点の商品・サービス開発のありようを、人の感性を基にした新たな価値創造へと転換し、経済や社会、生活を革新して行こうという問題意識と使命感の高い人材。

## 修了者の人材像

本専攻を修了した人材は、以下のような分野で活躍することが期待されています。

- ① 感性を基に新たなビジネス展開や商品開発等を行おうとする民間企業の企画部門、開発部門、研究部門の社員
- ② 教育、医療、福祉現場等で感性に配慮したサービスを行う教師、医師、看護師、チャイルドライフ・スペシャリスト、ケアマネジャー
- ③ 行政組織や社会において感性に配慮したサービスを行う公務員やNPO職員
- ④ 感性や心に関係する新しい研究を開拓する研究機関の研究者
- ⑤ ユーザー感性学に基づきユーザーと感性に関する提言を行うコンサルタント、コミュニケーター、ジャーナリスト

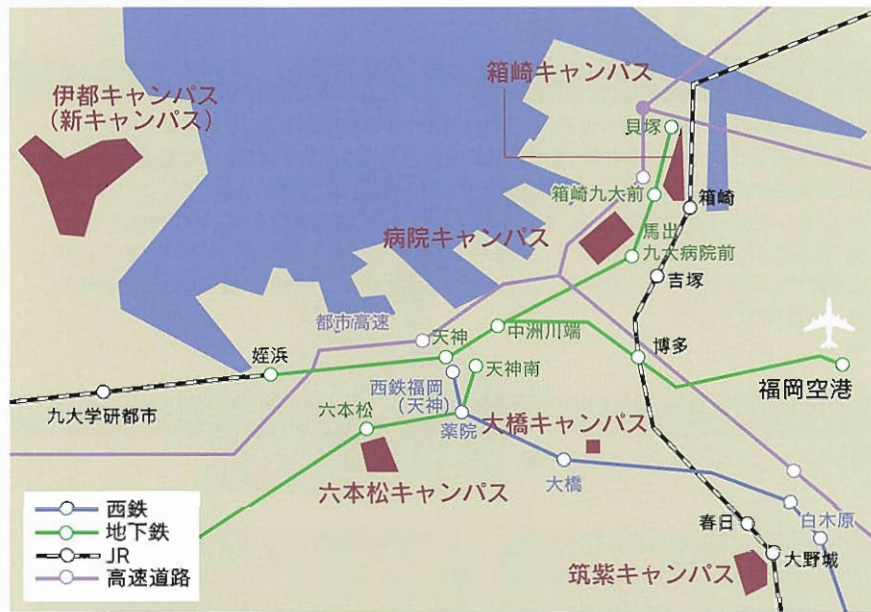
## ■ユーザー感性学専攻での人材育成



※「ユーザー感性学専攻」は設置予定ですので変更になる場合があります。



■九州大学及び九州大学USI関連施設ご案内



■箱崎キャンパス



■大橋キャンパス

USI(箱崎キャンパス)

〒812-8581  
 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1旧工学部本館2階  
 TEL:(092)642-7276 FAX:(092)642-7163

【JR博多駅より】

バス:博多駅交通センター1Fより西鉄市内バス系統番号29→箱崎松原下車、徒歩3分

地下鉄:JR博多駅(地下鉄1号線)→「中洲川端」下車、貝塚方面へ乗り換え(地下鉄2号線)→「箱崎九大前」下車、徒歩5分

タクシー:約20分

【福岡国際空港より】

地下鉄:福岡空港(地下鉄1号線)→「中洲川端」下車、貝塚方面へ乗り換え(地下鉄2号線)→「箱崎九大前」下車、徒歩5分

タクシー:約20分

USI(伊都キャンパス)

〒819-0395  
 福岡県福岡市元岡744  
 TEL:(092)802-3762 FAX:(092)802-3770

USI(大橋キャンパス)

〒815-8540  
 福岡県福岡市南区塩原4-9-1  
 TEL:(092)553-4654 FAX:(092)553-4654

【西鉄福岡(天神)駅より】

西鉄天神大牟田線:大橋駅下車、東口徒歩2分  
 タクシー:約15分

【JR博多駅より】

バス:博多駅交通センター1Fより西鉄市内バス系統番号47番、48番→大橋駅下車、徒歩2分

地下鉄:JR博多駅(地下鉄1号線)→「天神」下車→西鉄天神大牟田線へ乗り換え

タクシー:約20分

【福岡国際空港より】

地下鉄:福岡空港(地下鉄1号線)→「天神」下車→西鉄天神大牟田線へ乗り換え

タクシー:約30分

九州大学及びユーザーサイエンス機構 大橋サテライト LUNETTE

〒815-0033  
 福岡県福岡市南区大橋1-3-27  
 TEL:(092)554-3875 FAX:(092)554-3876

お問い合わせ先

九州大学ユーザーサイエンス機構

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 旧工学部本館2階 TEL:092-642-7276 FAX:092-642-7163

<http://www.usi.kyushu-u.ac.jp>



振興調整費

2008.10.500